

笑顔咲く 20 STORIES



時を紡ぎ 笑顔咲くまち



2005年10月1日、佐用郡4町が結ばれ 「共生の郷」へのSTORYが始まった。



佐用町長
庵谷典章

新・佐用町誕生から 20年の歩みを振り返って



20年前、もともと地理的にも生活的にも結びつきが深く、歴史や文化を共有してきた佐用郡の4町が合併し、新たな佐用町が誕生しました。合併後は同じ風土の下で町民の融和が進み、このまちに住むみなさ

んと行政が一体となって創る「協働のまちづくり」を合言葉に歩んできました。そして今日まで、地域の特徴を生かしながら町の姿を形づけてきた20年の軌跡は、佐用町の歴史に新たな一ページを刻んでいます。

その間には、平成21年の台風第9号による豪雨災害という、大きな試練がありました。町民がひとつになって進めた復興では、将来のまちづくりや、自然環境を見据え、創造的に進めることができました。

インフラ整備や財政の健全化など安全・安心な暮らしを支える基盤を整えたことは、この20年の大きな成果のひとつです。また、人口減少や森林資源の保全といった課題にも向き合い、学校統合や産業振興など、将来を見据えた計画を策定しな

がら、新たな時代に応えられる町を築いてきました。

こうした20年の歩みは、決して出来事や施策だけで語り尽くせるものではありません。新しい命が育ち、人と人がつながり、力を合わせ、日常を支えてきた積み重ねが歴史を形づくっています。合併20周年の節目にあたり、町民一人ひとりの姿を思い起こしながら、この20年間で振り返るとともに、未来の佐用町に思いをはせていただければと思います。



ひまわり畑

旧南光町時代の1990年、休耕田を活用したひまわりの大規模栽培がスタート。現在では4地区の計約15ヘクタールで、地元の人たちが丹精込めて育てています。7月中旬から8月上旬まで時期をずらして咲かせ、開花に合わせて「南光ひまわり祭り」を開催しています。



STORY 01



▼ひまわり祭りの準備は地域総出で



ひまわりの栽培に取り組む農家
尾上茂さん（林崎）



大きく美しい花を！
栽培に情熱を注ぐ



佐用町の夏の風物詩としてすっかり定着したひまわり畑。加工用の種の収穫が一番の目的でしたが、自治会が主体となり開花に合わせて「ひまわり祭り」を催したところ、たちまち評判に。町の事業となり栽培に乗り出す地区が増え、ピーク時は150万本を超えるひ

まわりが咲き、来場者数も激増しました。「西日本には当時、大規模なひまわり畑はこしがなく、他府県から観光バスが何台も来るほど盛況でした」と、当初から栽培してきた尾上茂さんは振り返ります。町の合併後、広報が強化され、来場者数は増すばかり。2015年には全体で12万人を記録しました。



▲来場者に種を無料で配布



▲東徳久地区では営農組合を中心に栽培し、地域住民がおもてなしをしています。

各地区で工夫を重ねています。尾上さんは高齢化という課題を抱えながらも、「お客さんに喜んでもらえるよう、毎年大輪の花が咲くまで丹精込めて育てています」と、笑顔で話します。



宍粟市北部に源を発し、佐用町、上郡町を経て赤穂市の播磨灘に注ぐ、全長約68キロの清流。名水百選にも選ばれています。佐用町内では中島で志文川、久崎で佐用川を合わせ、川幅を広げながら上郡町へ流れていきます。

千種川



飛龍の滝

約20メートルの高さから豪快な音としぶきを立てて水が流れ落ちる光景は、まさに壮観。滝の中央部の岩壁が突き出た部分で水の流れに変化がつき、これが飛龍の姿に似ていることが名前の由来です。



佐用の朝霧

晩秋から冬にかけての早朝に発生します。大撫山の展望台からは眼下に乳白色の雲海が広がり、まち全体をすっぽりと包み込みます。朝日が昇り始めるとオレンジ色の光が射し込み、より幻想的な光景へと移ります。



残したい風景

西はりま天文台と星空

標高436メートル、大撫山の頂に立つ天文台は旧佐用町時代の1990年、星の都のシンボル施設として誕生。世界最大級の公開望遠鏡「なゆた」による星空の観望会を開催し、参加者を神秘の世界へいざないます。



姫新線と田園風景

1934年に佐用郡内に延伸したJR姫新線は、2010年の高速化工事を経て、現在も地域の交通手段として親しまれています。銀色の車体が緑鮮やかな田園地帯を駆け抜ける景色は、まるで一枚の絵画のようです。



大イチョウ

樹高約28メートル、幹回り9.4メートル。樹齢は千年を超えるといわれ、兵庫県の天然記念物に指定されています。例年11月中旬に見頃を迎え、月末にかけて落葉とともに周囲を黄金色に染めます。

STORY
02

佐用山城ガイド協会会長
春名政男さん（下町）

国指定史跡の山城へ ツアー客を安全に案内する



標高373メートル、平福の利神山の頂にある利神城跡は、石垣の崩落により長らく入山が禁止されていましたが、2021年4月、佐用山城ガイド協会主催のツアーに限り入山が認められました。その背景には協会の会長、春名政男さんたちの「利神城の魅力を多くの人に知ってもらいたい」という熱意と、入念に進めてきた下準備がありました。



▲参加者に配布する
オリジナルパンフレット

62歳の時に平福へ帰郷し、地元の観光ガイドをしていた春名さん。「平福はもともと利神城の城下町として整備されました。ガイドをしていると、おのずと城にも興味が湧きました」。仲間と共に文献を調べたり、専門家に話を聞いたりして知識を深めました。

17年に利神城跡が国史跡に指定されると危険箇所金網が張り、20年には町の応急対策工事がスタート。それを機に、春名さんは協会を結成し、安全な登山計画を立てたことでツアーが実現しました。

折からの山城ブームを追い風に、ツアーは大盛況だといいます。「立ち入れない場所は写真で説明しています。来てよかったと思ってもらえる期待を裏切らないガイドを心がけています」と、これからもふるさとの魅力を伝え続けます。

伝えたい
歴史文化

利神城跡

南北朝時代、赤松一族が標高373メートルの利神山の頂に築城。江戸初期には池田輝政の甥、由之によって三層の天守が造られ、雲海にそびえる姿から「雲突城」の異名を取りました。現在も当時の石垣群が残っており、2017年には佐用町初の国史跡に指定されました。



三日月藩 乃井野陣屋館

白壁の塀からせり出した2階建ての物見櫓は、1697年に造られた三日月藩乃井野陣屋の唯一の遺構です。陣屋の物見櫓は全国でも珍しく、歴史的価値が評価されています。



日岡八幡神社秋季大祭



伝統の祭り

地域の人々が豊作や健康を願って行ってきた祭りは、世代を超えて受け継がれています。

龍山神社秋季例大祭



平松武者踊り



上月八幡神社秋季例大祭



伝えたい
歴史文化

平福の 町並み

江戸初期に利神城の城下町として整備され、廃城後は因幡街道有数の宿場町として栄えた平福。現在も旧街道沿いに格子戸や連子窓をしつらえた町家、佐用川沿いには川座敷と土蔵が並び、かつての面影を色濃く残しています。



皆田和紙

室町時代から作られてきた和紙で厚手で破れにくいことから主に屏風や障子に使われました。1968年に生産が途絶えたものの、70年に旧上月町が再興。現在は保存会が紙すき体験や学校の出前授業を通して、紙すき文化の継承に努めています。

届けたい逸品

ホルモン焼きうどん

牛のホルモンとうどんを鉄板で焼き、甘辛いタレにつけて食べる、ご当地グルメ。戦後間もない頃、安価で仕入れたホルモンを使って、労働者に提供したのが始まりです。21世紀に入り、「ホルモンうどんくわせ隊」のPR活動によって知名度が上がり、今では県外からも多くの人が味わいに訪れます。



STORY 03

▼イベントでは青年部のメンバーが食材の調達から調理、提供まで全てこなします



佐用町商工会青年部 観光客を呼び込む 息の長い町の名物へ



町民のソウルフードとして愛されているホルモン焼きうどん。佐用町商工会青年部は2006年、当時すでに人気が高まっていたご当地グルメを観光客にさらにアピールしようと、提供店をまとめたガイドマップを作成しました。

以降、情報の更新などを重ね、25年7月に発行した第10版の改訂時には作成委員会を立ち上げ、ウエ

▼歴代のホルモン焼きうどんガイドマップ。
観光施設などで配布



ブとの連動型へ刷新。メンバーが掲載店を取材して回り、食べる様子を撮影するなど、店の味の特徴や店内の雰囲気などを細やかに紹介するほか、店舗検索もできるようにしました。「これまでの内容ではどの店に行くか決められないのではと感じ、



▲最新版は、マップに掲載された二次元コードを読み込むとウェブサイトにつながります

観光客目線に立った情報の提供を心がけました」と、委員長の谷本智仁さんは狙いを説明します。

また、22年には岡山県津山市のホルモンうどんの関係者を招き、佐用町大収穫祭で販売数対決や食べ比べを実施。大きな話題を呼び、長い行列ができる盛況ぶりです。食べ比べは恒例化。最近では町内外の催しにも積極的に参加し、実演販売しています。「高齢を理由に閉める店もある中、ホルモン焼きうどんがさらに認知され、多くの人が佐用町へ来てもうための後押しができれば」と意気込んでいます。



三日月高原ぶどう

約50年前、南広集落の標高約400メートルの傾斜地で栽培が始まりました。現在は10軒が甘くて大粒のブドウを生産。8月から10月にかけて、「ピオーネ」や「紫玉」、「シャインマスカット」などが収穫されます。



イチゴ

近年、若手農家が中心となって「紅ほっぺ」や「章姫」などを栽培しています。町内の直売所などで販売しているほか、イチゴを使ったスイーツを提供している店もあります。



届けたい逸品

佐用もち大豆

1980年代に旧上月町で栽培が始まった在来種。一般の大豆よりも大粒で、もちもちとした食感とともに、甘みやこくが広がります。2019年には地理的表示（GI）保護制度に登録されました。加工品の中でも、特にもち大豆みそは町を代表する特産品です。



ひまわり

オイル

見頃を終えたひまわりから種を採取し、「南光ひまわり館」で搾油。オレイン酸やビタミンEが豊富で、学校給食にも使われています。



自然薯

旬は11月から1月。昼夜の寒暖差が大きい気候によって育まれる自然薯は栄養価が高く、滋養強壮に効果があります。ふるさと納税の返礼品としても人気です。



そば

古くからそばを栽培してきた旧三日月町では、1990年ごろから転作物として本格的に生産に力を入れるようになりました。「味わいの里三日月」では挽きたて、打ちたて、ゆがきたてのそばを味わえます。



米

千種川の清らかな水や盆地特有の昼夜の寒暖差といった自然の恵みが良質の米を育てます。「山田錦」や「白鶴錦」など酒米の生産も盛んです。

住民と行政が共に力を
合わせて、みんなが暮ら
しやすいまちに―。協
働のまちづくりの実現
に向けて設立された13
の地域づくり協議会で
は、住民同士が交流した
り防災力を高めたり。
絆を深めつつ、それぞ
れの地域が抱える課題を
解決するための特色あ
る取り組みが展開され
ています。



▲ふれあいサロン
【上月地域づくり協議会】

STORY
04



ふるさとの課題を共有し
地域のみんなで解決を

江川地域づくり協議会会長 木村政照さん（福澤）

島根大学教育学部社会科教育専攻教授 作野広和さん



2006年、旧小学校区を単位に
13の地域づくり協議会が誕生しま
した。「町から『地域の課題を解決す
る拠点になってほしい』と言われた
ものの、何が課題かもよく分かりま

せんでした」と振り返るのは、江川
地域づくり協議会の発足以来、会長
を務めてきた木村政照さんです。そ
こで、同協議会では地域住民にアン
ケートを取って交通手段の不足な
ど課題を洗い出し、将来目標などを
まとめた「地域づくり計画」を全戸
に配布して共有。デマンドバス「江
川ふれあい号」の運行をはじめ、実
情に即した事業を次々と実現して
きました。

その他の協議会でもそれぞれ多
彩な取り組みが展開されたものの、
時間の経過とともに事業のマンネ
リ化や後継者不足などさまざまな
課題が表面化。そのため、町では18

年度に「地域づくり協議会あり方検
討委員会」を設置。住民代表や町職
員、有識者が一堂に会して協議会の
現状と課題を整理し、意義や役割を
再定義しました。

「住民みんなが参画し、地域の中
でやるべきこと、やれることを、や
りたい人ができる範囲でやってい
くのが本来在るべき姿です」と、委
員会で座長を務めた島根大学教授
の作野広和さんは説明します。翌年
度からは実際の活動を見直す「みん
なの地域づくり協議会活力向上プ
ロジェクト」がスタート。協議会ご
とに地域づくりアドバイザーが付
き、活動内容だけでなく、多様な人
が関わることでできるよう組織の
改善も図られました。

「みんなで思いを語り合い、課題解
決に向けて実行に移す段階になる
と、役員以外も一緒に汗をかけるよ
うになりました」と変化を語る作野



▲「さようみん活フォーラム」では、異なる地域の人が意見交換や情報共有

さん。「それが楽しみや生きがいにつ
ながって、地域の皆さんがますます
前向きに関わるようになるなど、ど
の地域もすごく頑張られています」
自分たちの住んでいる地域を少
しでも良くしていくため、町と共に
試行錯誤を重ねてきた20年。積み上
げてきた経験は、これからまちづ
くりにも生かされていきます。



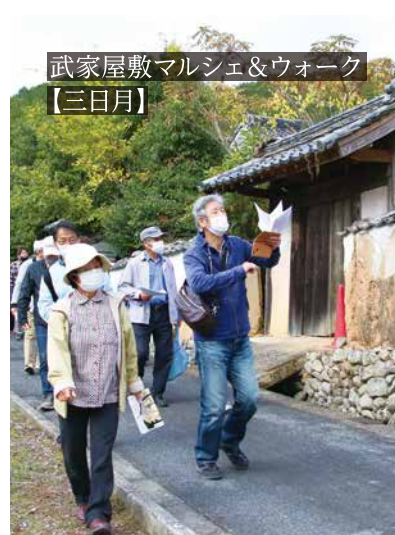
地域づくり協議会
絆を深める多彩な取り組み

美しいふるさとを
次世代へ

土蔵群ライトアップ【平福】



大漁鯉のぼり【佐用】



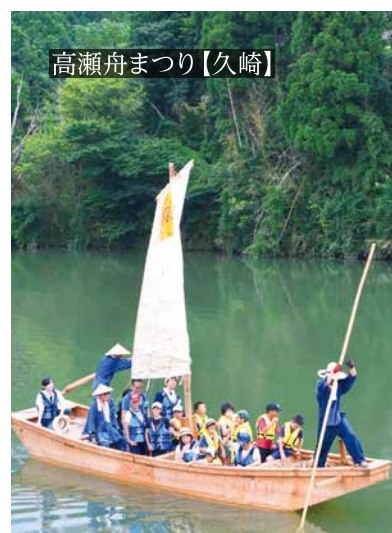
武家屋敷マルシェ&ウォーク
【三日月】



しめ縄づくり【石井】



千種川の清流を守ろう【三河】



高瀬舟まつり【久崎】



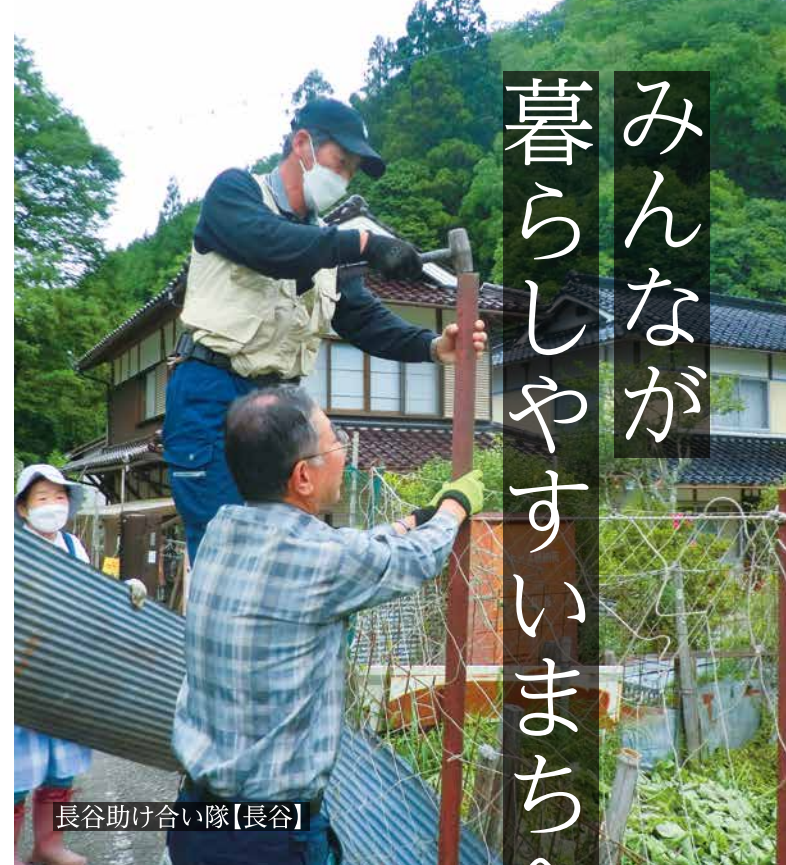
上月城ふるさと祭り【上月】



海内・桑野
ふれあい体育祭【海内】



三世代交流七夕会【中安】



長谷助け合い隊【長谷】



ふれあい運動会【長谷】



平成29年度 平福地区敬老会

平福地区敬老会【平福】



幕山ふれあいまつり【幕山】



三世代交流グラウンドゴルフ【徳久】



防災訓練【中安】

防災力を高め
災害に備える

大水害

からの

復興

一瞬にして道路は冠水し

濁流が押し寄せる

佐用商店街（栄町）



山からの流木が橋に堆積し
河川氾濫の要因に（桑野）



被害を受けた
久崎保育園



約2カ月間運休を
余儀なくされた
JR姫新線（上月駅周辺）



漂流物による
家屋被害の様子（川原町）



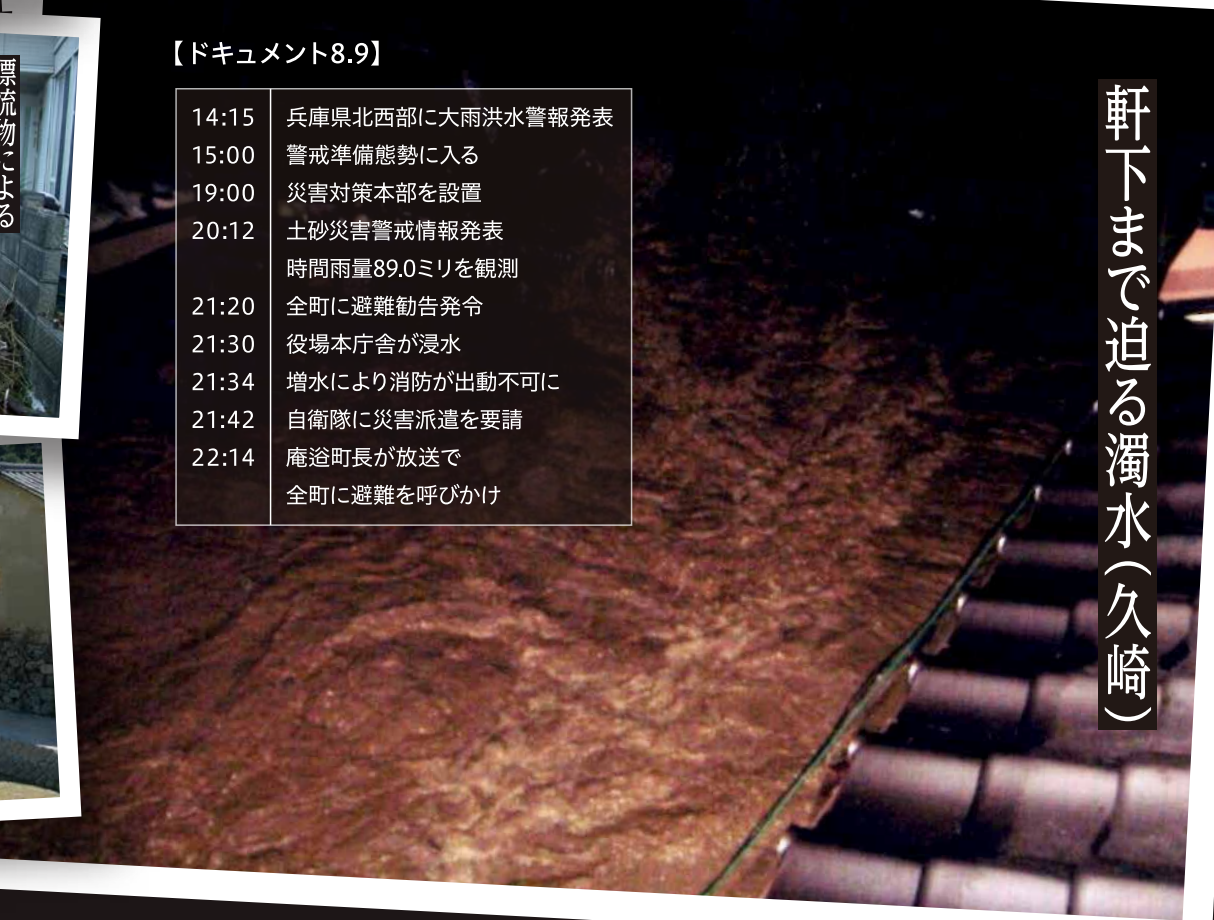
佐用川の水位が上昇し
大きな被害を受けた
平福の土蔵群



【ドキュメント8.9】

14:15	兵庫県北西部に大雨洪水警報発表
15:00	警戒準備態勢に入る
19:00	災害対策本部を設置
20:12	土砂災害警戒情報発表 時間雨量89.0ミリを観測
21:20	全町に避難勧告発令
21:30	役場本庁舎が浸水
21:34	増水により消防が出動不可に
21:42	自衛隊に災害派遣を要請
22:14	庵治町長が放送で 全町に避難を呼びかけ

軒下まで迫る濁水（久崎）



2009（平成21）年8月9日、佐用町は観測史上最大の記録的豪雨に見舞われ、町内各地で河川が氾濫。未曾有の大水害は20人もの尊い命を奪い、暮らしを支える生活基盤にも甚大な被害をもたらしました。

【主な被害】

死者・行方不明者	20人 〔死者18人、行方不明者2人〕
住家被害	1,790棟 〔全壊139棟、大規模半壊269棟、半壊483棟、 床上浸水157棟、床下浸水742棟〕
停電被害（最大）	約2,700戸
断水被害（最大）	約4,750世帯
公共土木施設被害	193億2,160万円 〔佐用町：約20億4,661万円 （河川78件、道路101件、橋りょう17件、水道4件、下水7件） 兵庫県（光都土木事務所管内）：約172億7,495万円 （河川181件、砂防31件、道路47件、橋りょう1件）〕
農産物被害	2億456万円※（549.4ヘクタール）
業種別被害	42億3,130万円※ 〔製造業2億9,438万円、商業（卸・小売・飲食）12億9,052万円、 その他の業種26億4,640万円〕

※被害額は聞き取り値

出典：災害記録誌「こころの輪」

共に

歩んだ

創造的復興

大水害から復旧、そして復興へ。町では、新たな価値を生み出しながらまちを再建していく「創造的復興」を合言葉に、町民の皆さんと共に歩んできました。



辺り一面泥だらけの中
復旧作業が始まる
久崎商店街



家屋の泥出しなどの
作業には
ボランティアが活躍



急ピッチで進む
佐用川の河川災害
復旧工事



ボランティア
による給食支援
(佐用駅前)



上月と久崎の
町有地に計42戸の
応急仮設住宅を建設



他市町などの
給水車が駆け付け
給水活動を展開

復興の歩み

2009年	8月	台風第9号災害が発生 災害ボランティアセンターを設置 (のべ1万6760人が活動)
	9月	応急仮設住宅への入居を開始 (2011年8月末まで運営)
	10月	町・県義援金の第1次分配を開始 (義援金は総額3億8716円)
	11月	災害復興計画検討委員会を発足 慰霊祭を開催
	12月	台風第9号災害検証委員会を発足
2010年	1月	町全域が局地激甚災害に指定
	3月	災害復興計画「きらめきプラン」完成
	6月	千種川流域の河川監視カメラが 本格稼働
	7月	台風第9号災害検証委員会が 報告書をまとめる
	8月	追悼式を開催
	11月	千種川水系緊急河道対策事業が 本格的に始まる
2011年	1月	災害復興計画フォローアップ委員会 を発足
	12月	町営久崎第2住宅が完成
2012年	5月	全自治会に一時避難所の看板を設置
2014年	8月	記録誌「ころの輪」を発行
2015年	8月	久崎地区の復興ひろばに 「災害復興モニユメント」が完成
2016年	7月	千種川の緊急河道対策工事完了 (改修河川は総延長55キロ、 総事業費約565億円)



改修された千種川
(久崎駐在所付近)



初の復興イベント
「がんばろう
佐用町屋台村」



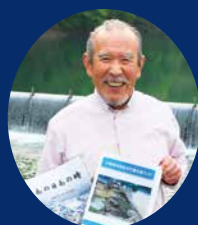
災害の教訓を後世に伝える
災害復興モニユメント



専門家が
心のケアを展開



防災リーダー
研修会での
災害図上訓練



当時の久崎自治会長
三宅賢三さん

地域のつながりで負傷者ゼロ

久崎自治会は171世帯のうち9割が床上浸水するなど大きな被害を受けましたが、幸いにも負傷者は1人も出ませんでした。隣保長を中心に近所で声をかけ合い、避難したおかげです。地域のつながりと、子どもの頃から川に親しみ知恵を受け継いできたことが大きかったですね。災害後、防災訓練をする中で、高齢者の足では避難所の小学校まで1時間ほどかかることが判明し、途中に立ち寄って休憩できるよう対策をお願いしたところ、復興住宅の2階に一時避難所ができました。このように地域で一つずつ問題を解消しながら復興の道を歩んできました。



台風第9号
災害検証委員会委員長
室崎益輝さん

町民みんなで力を合わせた復興 優れた防災対策は全国モデルに

防災対策は行政だけがするものではなく、地域の人々の力が不可欠です。そのため災害検証委員会では、町内で二度と同様の被害を出さないよう対策につなげることを念頭に、地元の多様な立場の人の声を反映させ、町民が主体になるような検証をめざしました。これを基に作成した復興計画は「絆」「きらめき」「ふるさと」をキーワードに、大水害の悲しみをばねに、絆の力でより豊かで安全安心な明るい地域社会をつくるんだという強い決意が込められています。皆さんが力を合わせたおかげで復興は非常に早く進み、全国で最も優れた情報伝達システムができあがりました。行政と地域の連携も素晴らしく、今では佐用町は全国の防災モデルとなっています。これからも町民一人ひとりが防災の主人公だという自覚を持ち、トップランナーの役割を果たしていただきたいです。

プロフィール
神戸大学名誉教授、兵庫県立大学名誉教授。防災研究の第一人者。

合併からの20年 「共生の郷」をめざして

「佐用郡は一つ」を合言葉に、佐用町、上月町、南光町、三日月町の4町が合併し、
新「佐用町」がスタートしたのは2005(平成17)年10月1日。
それから20年、豪雨災害などに見舞われながらも、
誰もが安心して暮らせる「共生の郷」をめざしてまちづくりを展開してきました。
その歩みを振り返ります。



▲合併に至るまで幾度となく議論を重ねました



▲旧三日月町で開かれた住民説明会の様子



【合併時の旧町の状況】

旧町名	人口	世帯数
佐用町	8,251人	2,605世帯
上月町	5,225人	1,667世帯
南光町	4,341人	1,208世帯
三日月町	3,195人	990世帯
計	21,012人	6,470世帯

※2005年国勢調査



▲4町長が合併協定書に署名



SAYO TOWN OVERVIEW



10月 4町合併により新「佐用町」が誕生



▲テープカットで新生「佐用町」の歴史がスタート

この町に生まれ育ったことを誇りに思い、いつまでも佐用町に愛着を持ち続けられるよう魅力あるまちづくりを進めていくことが、わたしたちの使命です」とあいさつしました。

この日を境に、地理的にも歴史的にも深いつながりを持つ4町が、互いに育んできた地域特性を生かし融合させながら、「地域自治」を基盤とした考えの下、住民と行政による「協働のまちづくり」がスタートしました。

「佐用郡は一つ」という住民の熱い願いを原動力に、10月1日、佐用町、上月町、南光町、三日月町の4町が合併し、新生「佐用町」が誕生しました。同日、本庁舎となる旧佐用町庁舎では開庁式が開催され、新たな銘板の除幕やテープカットが行われました。

同式では、新町長が決まるまで佐用町長職務執行者を務めた山口聖治氏が、合併までの住民の理解と協力の感謝を述べた上で、「明日を担う子どもたちが、

▼銘板除幕により真新しい看板が披露されました



10月 のじぎく兵庫国体で町がスポーツ一色に



▲ハイレベルな試合とおもてなし活動で盛り上がった大会

はじめとする多くのボランティアが選手を温かく迎えました。さらに、デモンストレーションスポーツとして、佐用町で盛んに行われていた「インディアカ」と「スポーツチャンバラ」の競技が実施され、町内からも多くのチームが参加しました。また、イベント広場として町内の団体によるバザーやフリーマーケットが開催され、会場を盛り上げました。これらを通じて、「する」「みる」「ささえる」という兵庫国体の理念が体現され、町はスポーツ一色に染まりました。

大会前には「大会旗・炬火リレー」が行われ、Spring-8の放射光をろうそくに照射して点火された火をつなぎ、96人のランナーが町内を駆け抜けました。大会当日は、佐用高校の生徒を

▼炬火をつないで96人のランナーが快走しました



HISTORY

2005 (平成17) 年度

10月

- 4町合併により新「佐用町」が誕生
- 佐用町長職務執行者に山口聖治氏が就任
- 教育長に衣笠孝氏が就任
- 議長に梶原義正氏が就任

11月

- 新佐用町で初の町長選挙庵途典章氏が当選
- 佐用町協働のまちづくり推進懇話会が誕生

12月

- 久崎市が復活

1月

- 合併後初の成人式



2月

- 合併記念事業「さようクロスカントリー＆ウォーク」を開催



2006 (平成18) 年度

4月

- 佐用町誕生記念式典を開催し新しい町章が決定



- 地域包括支援センターを開設
- 合併後初の町議会議員選挙(定数22人)

5月

- 議長に西岡正氏が就任

6月

- 教育長に勝山剛氏が就任
- 佐用町体育協会が設立

7月

- 町内13の地域づくり協議会が発足
- 佐用町観光協会が発足

8月

- 町商工会青年部による防犯パトロールカーの出発式



10月

- 「のじぎく兵庫国体」町内で3競技が開催

3月

- 議会議員定数条例を制定(定数20人)
- 佐用町総合計画を策定

STORY 05

ダンス教室「リトルボックス」盛岡麻里子さん(栄町)

20年前の新成人は健康づくりの担い手に

▼成人式では二次会のビンゴ大会で司会を務めました(左から2人目)



と、介護予防に効果的な振り付けを考案し、子どもへの指導と並行してシニアクラスも開いています。



STORY 06

「からくさ塾」主宰 小嶋明さん(多可町)



協働のまちづくりへ理念を伝え実現に尽力

合併当時の佐用町がめざしたのは、小学校区単位のきめこまやかなまちづくり。生涯学習を通じて住民が地域の課題に主体的に向き合う力を付けることで地域力を上げようとアドバイザーに迎えたのが、多可町在住で県の生涯学習関連の委員を務めていた小嶋明さんでした。

まちづくり推進会議の創設と同時に顧問に就任すると、地域づくり協議会の役員や町職員など協働のまちづくりを担う人材を養成するためのカリキュラムを組み、時には自ら登壇して理念やノウハウを伝授。

三日月地区では女性の参画促進に尽力したほか、各地で課題が生じるたびに足を運び、解決に向けて奔走してきました。20年間の成果について、「人材が育ったことやね」と目を細めます。

▼講演などで町内にまちづくりの理念を浸透させていきました



つなげる、広げる 私たちの地域交通網

町内での暮らしに必要な交通の便を保つため、誰もが移動できる地域公共交通の充実、町にとって重要な課題です。町はバスや鉄道などの公共交通機関の運行を維持し、移動手段のない人を支援しています。

地域連携で切り拓く鉄道利用促進

利用者が減少傾向にあったJR姫新線では、JR西日本と沿線自治体が「姫新線利用促進・活性化同盟会」を組織し、利用を促進してきました。2008年度には新型車両を導入して高速化を図り、09年からは「チャレンジ300万人乗車作戦」を掲げ、乗客数アップに向けて多彩な取り組みを展開。15年に目標を達成しました。

智頭急行智頭線は、第3セクター鉄道として兵庫県、岡山県、鳥取県や企業と連携し、沿線自治体の産業や観光を支えつつ、健全経営の下で利用者増加に努めています。

町は、町の大動脈である鉄道を守るため、独自に各駅に無料駐車場や駐輪場の整備や、複数での利用者への片道切符支給、大学生などの通学定期券の購入助成などにより、鉄道利用者の増加を図っています。



▲新型車両の導入で、姫駅-上月駅間の所要時間は75分から最速65分に



外出支援サービスの3本柱

2009年に民間路線バスが廃止されたことで生じた交通空白地域を解消するため、外出支援サービスの3本柱を充実させ、住民の健康で文化的な生活を守っています。

【さよさよサービス・江川ふれあい号】

自宅から目的地まで、予約に応じて運行する「デマンド交通」として、町社会福祉協議会が運営しています。運転手は地域住民が担っているため、利用者の見守り活動にもつながっています。



【コミュニティバス】

町内外の誰でも利用できる路線バスとして、佐用町役場と三河地域を結ぶ「佐用-船越線」と、三日月駅と県立大学附属高校を結ぶ「三日月-播磨科学公園都市線」の2路線を運行しています。これらの車体には、地域おこし協力隊がデザインしたラッピングが施されています。

【タクシー運賃助成】

町内のタクシー事業者と協力し、高齢者や障がいのある人などの生活交通を支援するため、運賃の一部を助成し経済的負担を軽減しています。便利に使える交通手段として親しまれています。



2008 (平成20) 年度

2007 (平成19) 年度

4月 佐用チャンネルが放送開始



▲開局を記念してさよう文化情報センターでイベントを開催

町内全域で進めていた光ファイバーの敷設工事がほぼ完了し、地上波デジタル放送を視聴できる環境が整いました。これに伴い、ケーブルテレビ「佐用チャンネル」を開設し、4月1日から放送を開始しました。地域のイベントや行政情報などを発信し、町民に身近なテレビ局として愛されています。

12月 第1回さようマラソン&ウォークを開催

町民の健康増進やスポーツ振興を目的に、「第1回さようマラソン&ウォーク」が三日月中学校周辺で開催されました。ハイフマラソンやウォーキングの部門に、町内外から幅広い年齢層の462人が参加しました。以降、ランニングブームの高まりとともに参加者が増え、これまででのべ1万5000人が参加。冬の風物詩として定着しています。

▼ハーフマラソンには100人が参加しました



HISTORY

2007 (平成19) 年度	2008 (平成20) 年度
4月 ● 防災情報などを発信する「さよう安全安心ネット」が開始	4月 ● 「佐用チャンネル」が放送開始 ● 佐用町商工会が発足
11月 ● 「星空のあるまちづくりフォーラム」を開催	10月 ● 国道373号円光寺トンネルが供用開始
3月 ● 町全域に光ファイバー敷設「ひようご環境体験館」がオープン ● 南光支所庁舎が完成	3月 ● 町全域に光ファイバー敷設「ひようご環境体験館」がオープン ● 南光支所庁舎が完成
12月 ● 「第1回さようマラソン&ウォーク」を開催	12月 ● 「第1回さようマラソン&ウォーク」を開催

▼力走する塚崎さん



週4回は地元の本郷川沿いで練習をします。季節によって水面の光り方が違うことに走るまでは気づきませんでした。野鳥を見る機会も増え、マラソンのおかげで心が豊かになった気がします」

2011年の第5回さようマラソンから12回連続で出場している塚崎純さん。ひよんなことからハーフマラソンの制限時間が3時間と知り、「僕でもできる!」と初挑戦を決意したそうです。

「町外からも多くのランナーが参加してくれて、地域が活気づくのはうれしい」と語る塚崎さんは、干支のかぶり物で沿道を沸かせ、抽選会の賞品に自社で扱っている番茶を提供しています。

さようマラソンの常連は盛り上げにも一役

STORY 07

(株)ツカザキ代表取締役
塚崎純さん(田比)



【町議会20年の主な出来事】

05年	10月 第1回町議会臨時会を議員54人で開催
06年	4月 町議会議員選挙(定数22人)
10年	3月 佐用町犯罪被害者等支援条例を制定 4月 町議会議員選挙(定数18人) 6月 佐用チャンネルで定例会(一般質問)の生中継を開始
12年	3月 佐用町暴力団排除条例を制定 11月 議会に関する意識調査を実施
14年	3月 佐用町議会基本条例を制定 4月 町議会議員選挙(定数14人) 12月 庁舎増築に伴い新しい議場に
15年	3月 旧町単位で議会報告会を初めて開催 5月 地域づくり協議会単位で議会報告会を初めて開催 8月 子ども議会を開催
18年	4月 町議会議員選挙(定数14人)
22年	10月 定例会(一般質問)の録画放送とインターネット配信を開始 4月 町議会議員選挙(定数14人)

合併後、議員54人でスタートした佐用町議会。議会の基本的なルールを定めた議会基本条例の制定や、議員定数の適正化などに取り組み、現在は14人の議員が、町民に寄り添いながら透明性の高い「開かれた議会」の実現を目指しています。

4月

佐用町議会の歩み

▼2022年の町議会議員選挙後の議員



11月

佐用保育園・さよう子育て支援センターが完成



▲三角屋根の部分は子育て支援センターの多目的ホール

ホールをはじめ、絵本コーナーや相談室を備えています。また、専門家による子育て相談や、親子の交流を目的とした「ママプラザ」の開催、仕事などで保育ができない時に子どもを預かるファミリーサポートセンター事業など、多彩な取り組みを展開。町の子育て支援の拠点として、多くの人に利用されています。

【町の主な子育て支援事業】

- ▶ 学校給食費軽減(2015年4月～)
幼稚園、小・中学校の給食費の半額を助成。
- ▶ 子育て支援券支給(2015年4月～)
小・中学生に副教材などの購入相当額の商品券(町商工会発行)を支給。
※小学生は年1万5,000円、中学生は年3万円
- ▶ 保育料無償化(2019年10月～)
第2子以降の3歳未満児童の保育料を無償化。
- ▶ 紙おむつの無償提供(2023年4月～)
保育園・幼稚園で使う紙おむつを無償で用意するとともに、在宅で育児する世帯には提携店で紙おむつを購入できるクーポンを配布。

HISTORY

2009 (平成21) 年度

- 4月 ● 町青少年育成センターを開設
- 「佐用町昆虫館」がオープン
- 6月 ● 町獣害防止対策協議会が設立(定数20人→18人)
- 7月 ● 議長に山田弘治氏が就任
- 8月 ● 台風第9号災害が発生
- 10月 ● 佐用町長選挙
庵谷典章氏が当選(2期目)
- 11月 ● 町民の暮らし応援券(第2弾)を発行
- ㈱ウエスト神姫が運営する町内の路線バスが廃止
- 佐用保育園・さよう子育て支援センターが完成
- 12月 ● 台風第9号災害慰霊祭を開催
- 1月 ● 播磨徳久駅と三日月駅に無料駐車場を整備
- 3月 ● 台風第9号災害で町全域が局地激甚災害に指定される

2010 (平成22) 年度

- 4月 ● 町議会議員選挙(定数18人)
- 5月 ● 議長に矢内作夫氏が就任
- 6月 ● 議会的一般質問を
佐用チャンネルで生中継開始
- 8月 ● 町学校給食センターが完成
平成21年
台風第9号災害
追悼式を開催
平成21年
台風第9号災害
訴訟始まる
- 9月 ● 町内11カ所に
河川監視カメラを設置
- 10月 ● 町花が「ひまわり」、
町木が「いちよう」に決定
合併5周年記念式典
● 江川地域づくり協議会が
「江川ふれあい号」を運行開始
- 11月 ● しかコロッケPRキャラクター
の名前が「コロたん」に決定
● 観光イメージキャラクター
「おさよん」誕生
- 3月 ● 東日本大震災発生



STORY 08

NPO法人こどもとむしの会理事
野村智範さん(櫛田)

生き物に触れる大切さを子どもたちに伝える



2009年の開館以来、「佐用町昆虫館」の運営にあたっているNPO法人こどもとむしの会。同会に誘われ一員となった野村智範さんは当時、小学校教諭で、佐用川のオオサンショウウオを守る会の副会長でした。「昆虫は専門外ですが、館の敷地には両生類も生息しているので役に立てばと思いました」

▼子どもたちに説明する様子



4月から10月までの土曜、日曜祝休日に開館し、同会の会員が持ち回りで館長を務めます。子どもたちは来館すると、すぐさま虫捕り網を手に屋外へ。館長の主な仕事は彼らが捕まえた生き物の説明です。「餌や習性について聞かれます。実際に生き物に触れることが大事。クワガタに指を挟まれ痛みを知ることも貴重な経験です」と柔和な笑みを浮かべます。

STORY 09

元佐用町栄養教諭
安東美恵子さん(海内)

アレルギー対応や地産地消の給食に注力



合併前の1975年から2020年まで佐用の学校給食に携わってきた安東美恵子さんは、子どもたちの健康づくりと地域の食文化の継承に努めてきました。とりわけ力を注いだのが、地元の農作物を取り入れた給食の献立づくりです。

▼時には教壇に立ち、食事の大切さを児童に直接伝えました



「米は100%、野菜も約70%が佐用町産。生産者さんに欲しい作物を伝える一方、使ってほしいものを聞いて献立を考えました」。また、みそ汁を飲む家庭が減っていたことから、もち大豆のみそ汁を献立に採用。子どもたちの人気メニューとなりました。17年にはアレルギーを持つ子どもたちのためのマニュアルを完成させるなど、誰もが安心して食べられる給食の実現に貢献しました。

4月1日、佐用町を含む3市2町が共同で設置した「にしはりまクリーンセンター」が本格稼働を開始しました。この新しい施設では、ダイオキシンなどの有害物質を発生させないため、最新技術を導入し、安全で効率的な焼却処理を行っています。また、焼却によって生じた熱エネルギーの活用や、資源ごみ



▲ごみを効率よく焼却処理する「熱回収施設」と資源ごみの再資源化を図る「リサイクル施設」を備える「にしはりまクリーンセンター」

▼発足に先立ち行われた「西はりま消防組合設置宣言式」



のリサイクルを推進することで、ごみの減量と循環型社会の実現に貢献しています。

また同日、佐用町、たつの市、宍粟市、相生市、太子町で構成される広域消防「西はりま消防組合」が発足しました。災害や事故が多様化する中、消防組織を広域化することで、迅速かつ効果的な出動体制を整え、現場対応力の向上を図っています。

4月

新たな広域行政で安全安心な町へ

6月

人と地域、行政をつなぐ
まちの情報紙・広報さよう



▲全国広報コンクールでも評価されています

「広報さよう」は、2005年10月の創刊以来「行政と住民の信頼関係を築く架け橋」として行政情報や地域の話題、町内で活躍する人々や団体を紹介してきました。また、09年の水害発生時には臨時号を発行するなど、これまで途切れることなく毎月発行を続けています。

4月

地域おこし協力隊が地域で活躍

都市部から地方へ移住し、地域の活性化に貢献する地域おこし協力隊。佐用町でも2011年から隊員を募集し、これまでに21人を任命しました。農業や観光振興、定住対策などの分野でそれぞれが新たな視点を生かして活躍しています。

▼2023年の活動報告会に参加した隊員たち



HISTORY

2011
(平成23)
年度

●地域おこし協力隊員事業がスタート

●「広報さよう」が
全国広報コンクールで
町村部1位に

●町民の暮らし応援券(第3弾)を発行

●町営久崎第2住宅が完成

●大垣内集落の「石堂家住宅」が
国登録文化財に

●「紙すき文化伝承館」が完成

●上三河の舞台が
115年ぶりの
大規模修理

2012
(平成24)
年度

●議長に西岡正氏が就任

●新しいごみの分別収集を開始

●東本郷自治会が発足
5集落(中村、仁増、鎌倉、
大内谷、添谷)が統合

3月

●南広自治会が発足
4集落(三原、
三ツ尾、東大畑、
西大畑)が統合

7月

●鳥取自動車道が全線開通

3月

●鳥取自動車道が全線開通

3月

●鳥取自動車道が全線開通

2013
(平成25)
年度

●まちづくり基本条例を施行
「にしはりまクリーンセンター」が
供用開始

●西はりま消防組合が発足

●(同)佐用鹿青年部が設立

●平成21年台風第9号災害
訴訟(判決)

●議会議員定数条例を改正
(定数18人→14人)

●上月太陽光発電所が完成

●佐用町長選挙

●庵途典章氏が当選(3期目)

●中安・徳久小学校で閉校式

●佐用・江川小学校で閉校式

●佐用・江川・長谷・平福・
石井保育園で閉園式

STORY
10

皆田和紙保存会会長
山本幹雄さん(下上月)



皆田地区に伝わる
紙すき文化を次世代へ

生産が途絶えていた皆田和紙を後世に伝えようと、2005年4月に結成された皆田和紙保存会。メンバーたちが昔ながらの道具や工程で作る和紙は、あんどんや山城の御城印などに使われています。

「原料のコウゾは100%地元産です」とこだわりを話すのは、会長の山本幹雄さんです。コウゾはメンバー自ら育てているほか、佐用高校や農家など協力先からも収集。それらを蒸し、幾つもの工程を経て紙すき作業へ。12年に工房を備えた「紙すき文化伝承館」ができたことで、作業効率は格段に上がりました。依頼があれば紙すき体験も実施し、24年には県文化賞を受賞しました。



▼水害の犠牲者を追悼するあんどんにも使われています

効率は格段に上がりました。依頼があれば紙すき体験も実施し、24年には県文化賞を受賞しました。

STORY
11

(同)佐用鹿青年部代表
四方田康次さん(栄町)

異業種の商工業者で
まちおこしに奔走

プロデュースした
「しかコロッケ」が大ヒット
した佐用町商工会青年部。
そのOBが中心となって
2013年に立ち上げたのが、(同)佐用鹿青年部です。「経営を続けていく上で、町全体が潤うことが重要だ」という思いを共有する者が集まりました」と、代表の四方田康次さんは振り返ります。

当初は全国各地のイベントでコロッケを販売しながら町をPR。その後、空き家対策にも着手し、改装した家屋を移住者に提供したりしています。20年には民間企業と共同で子会社を設立し、平福の古民家を活用して一棟貸しの宿をオープンするなど町に新風を吹き込み続けています。



▼町外のイベントで、しかコロッケを販売するメンバー



で子会社を設立し、平福の古民家を活用して一棟貸しの宿をオープンするなど町に新風を吹き込み続けています。

4月 地域と共に歩んだ
教育改革

町内の少子化に伴い複式学級の設置が予測される中、学校の活力の向上や子どもたちの集団としての成長を促し、より良い教育・保育環境の実現をめざして学校・園の規模適正化への取り組みが始まりました。

統合に向けて、全ての小学校区や保育園に懇談会や委員会を設置し、保護者や地域の皆さんと協議を重ねました。統合による子どもたちの学校・園生活の変化や通学・通園方法の検討、校名や制服の決

定など、多くの課題を一つ一つ解決しながら、構想から10年以上の歳月をかけて2019年度に全ての学校・園で規模適正化が完了。20年度までに3小学校、4保育園が新たに誕生し、町内の学校・園は4中学校、4小学校、5保育園、1幼稚園となりました。

長い歴史を持ち、地域住民に親しまれた学校や園では、閉校にあたり、学び舎への感謝と惜別の思いを込めてさまざまな記念行事が開催されました。



▲開園を記念したくす玉開き(利神保育園)

【学校・保育園の統廃合】

	閉校年度	統合年度	統合後
三土中学校	2014	—	上津中学校
佐用小学校	2013	2014	佐用小学校
江川小学校			
利神小学校	2019	2020	
中安小学校	2013	2014	南光小学校
徳久小学校			
三河小学校	2019	2020	
幕山小学校			
上月小学校	2014	2015	上月小学校
久崎小学校			
佐用保育園	2013	2014	佐用保育園
江川保育園			
長谷保育園	2013	2014	利神保育園
平福保育園			
石井保育園			
幕山保育園	2014	2015	上月保育園
上月保育園			
久崎保育園			
中安保育園	2016	2017	南光保育園
徳久保育園			
三河保育園	2019	2020	

※三土中学校は、生徒を上津中学校に編入



▲開校記念式典と入学式が行われました(南光小学校)



▲町長から新しい校旗が手渡されました(佐用小学校)



▼新しい園歌を元気いっぱいに歌いました(佐用保育園)

11月 申山太陽光発電所が完成し
売電を開始



▲国内で初めて木造建築構造の架台を採用

総事業費は約15億400万円。パネルを支える架台には県産ヒノキ材約1万4000本を使用、間伐材を活用することで山林の荒廃を食い止め、災害防止につなげる狙いです。

売電収入は年間約2億2200万円を見込み、町に分配される収入は独自財源として森林整備事業や子育て支援などに活用。小・中学校で使用する副教材購入費の助成などに充てています。

11月10日、町とIDEC(株)が共同で長谷地区に建設を進めていた太陽光発電所が完成し、発電を開始しました。鳥取自動車道の工事により発生した残土処分地約10ヘクタールに2万1000枚の太陽光パネルを設置したもので、発電規模は約5メガワット、年間発電量は一般家庭約1500世帯分に相当します。

▼協定を締結した庵道町長(左)とIDEC(株)の船木俊之社長



HISTORY

2014
(平成26)
年度

4月

●佐用・利神保育園で開園式

●佐用・南光小学校で開校式

●町議会議員選挙(定数14人)

●議長に石黒永剛氏が就任

5月

●申山太陽光発電所が完成し売電を開始(5メガワット)

11月

●上月保育園の新園舎が完成

3月

●三土中学校、幕山・上月・久崎小学校で閉校式

●幕山・上月・久崎保育園で閉園式



集団の中で成長できる
環境を子どもたちへ

中学校の教諭、管理職を経て、町教育長に就任した勝山剛さん。在任中に学校規模適正化の取り組みが始まった際、佐用の教育を考える機会にしたいと、地域の人々が協議する場を数多く設け、自身も会場によく足を運びました。



▼学校規模適正化協議会での協議は3時間を超えることも



「9年間をずっと同じ5、6人で過ごすのと、30人の集団とでは、教育環境は全然違います。子どもたちの将来を考え、人との関係性の中で成長していけるよう整えるのが大人の務めだ」と訴えました。無事に開校を見届けた時には、「これからが大変」と気を引き締めたそう。新しい学校の体育館には、書を愛する勝山さんが思いを込めて筆を走らせた新校歌が掲げられています。

4月 町役場本庁舎がリニューアル

住民サービスの向上と災害対策の強化を目的に、建設から約50年が経過していた町役場本庁舎の増改築工事が完了しました。今回の改修では、窓口を集約することで利便性が向上し、2009年の水害の教訓を生かして防災機能を備えた庁舎へ生まれ変わりました。同時に駐車場も整備したことで、役場周辺でのイベント開催時に快適に利用できるようになりました。

▼行政サービスの手続きや相談の窓口がある第一庁舎



10月 佐用町合併10周年記念式典を開催

10月1日、町の合併10周年を記念し、さよう文化情報センターで式典を開催しました。式典は、勇壮な上月太鼓の演奏で幕を開け、10年間の歩みを振り返る映像の上映や、功労者の表彰が行われました。400人が参加し、これまでの感謝を分かち合い、これからの10年に向けて新たな希望を抱くひとときとなりました。

▲記念式典会場の様子



4月 町えん結び支援事業「Meets!」を開始

町では、人口減少対策の一環として、結婚を希望する人々の出会いを応援する町えん結び支援事業「Meets!」を始めました。婚活に関する悩み相談をはじめ、お見合いのセッティングや婚活イベントの紹介など、幅広いサポートを展開しています。その結果、これまでに200組以上のカップルが誕生し、20組以上が結婚に至っています。

▼「Meets!」のシンボルマーク



11月 第1回因幡街道・千種川ロングライドin佐用を開催



▲平福を走るサイクリスト

サイクリングを核に地域の魅力を発信し、観光振興による交流人口の拡大をめざす「因幡街道・千種川ロングライドin佐用」を開催しました。ちくさ高原を越え、岡山県西粟倉村を経由して佐用へ戻る全長約80キロのロングコース。参加者300人は、チェックポイントで地元グルメを味わいながら、秋の佐用路を駆け抜けました。

HISTORY

2015
(平成27)
年度

- 佐用町役場増改築庁舎が完成
- 佐用町総合教育会議を設置
- 上月保育園で開園式
- 上月小学校で開校式
- 三土中学校閉校に伴い三河地区の生徒が上津中学校に編入

- 議長に西岡正氏が就任

- 小中学校で使用する副教材費相当額を商工会商品券で助成開始
- 平福地区の瓜生原邸に「お休み処瓜生原」がオープン

8月

- 平成21年台風第9号「災害復興モニタメント」完成披露・追悼式を挙げる
- 戦後70周年戦没者追悼式を挙げる
- 合併10周年記念子ども議会を開催

10月

- 木材ステーションさようが完成
- 教育長に平田秀三氏が就任
- 合併10周年記念式典



12月

- 国道179号「徳久バイパス」開通
- 「佐用町地域創生人口ビジョン・総合戦略」を策定
- 播磨科学公園都市定住自立圏形成協定書調印式

3月

2016
(平成28)
年度

- 町えん結び支援事業「Meets!」を開始
- 議長に岡本安夫氏が就任
- JR姫新線が乗客300万人を達成、記念式典を開催
- 空き家バンク制度を開始

7月

- 千種川水系緊急河道対策復興記念式典を開催
- 「第1回因幡街道・千種川ロングライドin佐用」を開催
- 特産物のブランドネームを「佐用風土」と決定

3月

- 中安・徳久保育園で閉園式
- 道の駅「宿場町ひらふく」がリニューアルオープン
- 三土中学校跡に「佐用まなび舎農園」を開園

2017
(平成29)
年度

- 南光保育園で開園式
- 利神城跡が国指定史跡に
- 佐用町長選挙 庵谷典章氏が無投票で当選(4期目)
- 「利神城跡国史跡指定記念シンポジウム」を開催

12月

10月

4月

STORY 13

元下徳久上自治会長
高原俊朗さん(下徳久上)

住民の悲願かない バイパス開通式に参列

2015年12月、下徳久上集落の自治会長だった高原俊朗さんは徳久バイパスの開通式に参列。「こんなにも旧道の車が減るのかと、びっくりしました」と開通効果を振り返ります。



▲テープカットの様子

同地区の国道179号は道幅が狭く、朝夕の渋滞が慢性化。自転車通学の高校生は車列の脇を通り抜けるという危険な状況でした。13年4月に自治会長になり、歴代会長にならって町にバイパス建設を嘆願しようと思っていた矢先、国道をう回するトンネルの建設が決まりました。「おかげで安心して歩けるようになりましたね」と、静かな旧道を見みじみと眺めます。

STORY 14

マリニロベルトヒデオさん
マリニ梓さん(平福中町)

出店と田舎での子育て 移住で夢をかなえる

首都圏に住んでいたマリニさん夫妻は長女の出産を翌年に控えた2020年、空き家バンクで見つけた平福の店舗付き一軒家に移住しました。「夫の趣味を生かしてパン屋を出すことと、子どもを田舎で育てることが夢でした」と梓さん。物件を一目で気に入ったヒデオさんが見学を申し込む一方、梓さんは町の子育て支援策を調べたといいます。「充実していると思います。第2子以降の保育料が無料なので、安心して2人目、3人目を産めました」



▼長女(4歳)、長男(3歳)、次男(0歳)の5人家族です



日系ブラジル人のヒデオさんは「近所は気さくな人ばかり。人との距離の近さは故郷のサンパウロに似ています」と話し、「佐用への移住はベストな選択でした」と顔を見合わせてほほ笑みます。

学校跡地施設の利活用が進む

町は、閉校・閉園となった施設を有効活用して地域経済の活性化や雇用を創出することを目的に、各施設の事業者を募集しました。この利活用により、新たな産業が生まれただけでなく、地域コミュニティの活性化にもつながっています。

▼地域の人との交流も生まれている日本語学校



【跡地利活用一覧】

旧施設名	新施設名	事業開始年月
江川保育園	赤竹工房(現SAN TAKEMOTO)	2016年4月
三土中学校	佐用まなび舎農園 ※2024年事業休止	2017年1月
長谷保育園	障がい者就労継続支援施設 「えん花園」	2017年5月
江川小学校	JUAVACドローンエキスパート アカデミー兵庫校	2017年9月
中安小学校	サービス付き高齢者向け住宅 「リバーサイドなかやす」	2017年10月
石井保育園	昆虫資源研究所・クリケットファーム	2018年5月
中安保育園	小規模多機能型居住介護事業所 「サテライトほほえみ」	2018年6月
幕山小学校	やまのいえ幕山 ※2024年閉業	2018年9月
久崎小学校	佐用日本語学校	2018年11月
幕山保育園	アトリエ「ōr」	2019年7月
海内小学校	海内山歌	2023年1月
三河小学校	佐用・三河小アートセンター	2023年7月
利神小学校	(株)ジャパンインベストメント アドバイザー	2024年7月

5月

佐用もち大豆が 地理的表示(GI)保護制度に登録



▲佐用もち大豆振興部会の役員の皆さん

粒が大きく一般的な品種と比べ約3割重く、もちもちとした独特の食感が特長。糖質が多くて甘みがあるのも魅力です。現在は町やJA、町内の農家で組織する「佐用もち大豆振興部会」が約75ヘクタールの畑で年間約110トンを生産。収穫した大豆はみそや豆腐などに加工・販売し、町の特産品として広くPRしています。

約30年前から町内で生産されている在来種の大豆「佐用もち大豆」が2019年5月、農林水産物や食品を地域ブランドとして保護する国の地理的表示(GI)保護制度に登録されました。大豆としては全国初となります。昼夜の寒暖差が大きい気候を生かして良質な大豆を作ろうと品種改良を重ね、佐用もち大豆が誕生しました。

▼朝霧に包まれる風土で優良な種子を守りながら育まれてきました



HISTORY

2018
(平成30)
年度

4月

●町議会議員選挙(定数14人)

5月

●三日月藩乃井野陣屋表門を移築・復元



●議長に山本幹雄氏が就任

12月

●三日月藩乃井野陣屋表門を町文化財に指定

2019
(平成31・
令和元)
年度

4月

●教育長に浅野博之氏が就任
●刀匠・高見國一さん(家内出身)が最年少で県内初の無鑑査に認定

5月

●佐用もち大豆が地理的表示(GI)保護制度に登録

7月

●秀谷太陽光発電所(10メガワット)が完成し売電を開始

10月

●小深田大翔さん(下町出身)が東北楽天ゴールデンイーグルスからドラフト1位指名

2月

●佐用町新型コロナウイルス警戒本部を設置
●新型コロナウイルスの影響で全国一斉の休校措置(5月末まで)

3月

●利神・三河小学校で閉校式
●三河保育園で閉園式

STORY
15

佐用共立病院勤務
バルア・
ゴータムさん(吉福)

日本語学校卒業後も 佐用での暮らしを選ぶ

▼佐用共立病院では総務課に配属され、主に職員の休暇管理を担当しています



バン格拉デシュ出身のバルア・ゴータムさんは2022年に来日し、佐用日本語学校で2年間学んだ後、佐用共立病院に勤めています。母国で大学院を出て、日系企業に就職。日本の文化や生活に興味を持つようになり、佐用日本語学校への入学を決めました。「私はバン格拉デシュの田舎町の出身。自然豊かな佐用町は故郷と通じるところがありました」とゴータムさん。入学した日から、学生寮の近所の人があいさつしてくれたことがうれしかったというゴータムさん。周りにいる心温かい人々の存在が、卒業後も住み続けている要因の一つです。「将来は第二の故郷、佐用でバン格拉デシュ料理の店を出すのが夢です」と、はにかんだ笑みを浮かべます。

STORY
16

(株)吉田営農代表
吉田将光さん(下秋里)

生産者の誇りと責任感で もち大豆商品を支える

吉田将光さんは26歳の時、会社員から農家に転身。現在は農地30ヘクタールのうち、3分の1を佐用もち大豆に充てています。「もち大豆商品の人気の高まりは、誇らしい反面、失敗できないという責任感もあります」。種まきや土寄せのタイミングが難しく、キャリア20年以上になる今でも、発芽するまでは安心できないと打ち明けます。

▼長男、真一郎さんはドローンの資格を取得。夏場の害虫駆除に大活躍です



年1回、町やJAの職員、生産者らで集まり、栽培の注意点や加工品の開発状況などの情報を共有。生育不良に悩む同業者にアドバイスを送るなど、産地のリーダー的存在です。「もち大豆は農家にとっても、町にとっても宝です。新しいみそ加工所も完成し、増産の要請があれば応えたい」と力強く話します。

10月 (株)元氣工房さようが設立



▲2024年にリニューアルした味わいの里三日月

けるほか、併設の飲食店でそれらを使ったメニューを提供。また、スタッフ間での技術交流や意見交換による新商品開発や人材育成、雇用確保などに取り組んでいます。

▼ふれあいの里上月



▼南光ひまわり館



10月1日、町内で直売所を運営してきた(株)三日月特産加工組合と(有)ふれあいの里上月、南光ひまわり館が経営統合し、(株)元氣工房さようとして新たなスタートを切りました。

各直売所は統合前と同様に営業を続け、地理的表示(GI)保護制度に登録されている佐用もち大豆をはじめ、在来種のそば、ひまわりに代表される特産品の加工から流通、販売までを手が

5月 新型コロナワクチン接種を開始



▲「広報さよう」2021年6月号で接種当日の流れを紹介しました

会や関係機関と連携しながら接種しやすい環境を整えました。

また、感染の拡大を防ぎ安全安心な暮らしを守るための事業を実施。子育て世帯や障がいがある人への生活支援、プレミアム付き商品券・商店街ポイントシールの発行、外出自粛などの影響を受けた路線バス・鉄道事業者への支援などを幅広く展開しました。

新型コロナウイルス感染症が全国的に広まり緊張が高まる中、2月に新型コロナワクチン接種対策室を設置。5月から65歳以上の希望者を対象に、さよう文化情報センター、佐用共立病院、佐用中央病院の3会場でワクチンの集団接種を開始しました。以降は、対象年齢や接種可能な医療機関を順次拡大し、電話に加えインターネットでも予約できるようにするなど、医師

▼さよう文化情報センターの接種会場



HISTORY

2020 (令和2) 年度

4月

- 佐用・利神小学校が統合
- 南光・三河小学校が統合
- 南光・三河保育園が統合

5月

- 議長に石堂基氏が就任

9月

- 養護老人ホーム「佐用朝霧園」が新築移転



10月

- (株)元氣工房さようが設立

11月

- (同)佐用鹿青年部が「ひまわり畑の音楽会」を開催



1月

- 若州集落に宿泊施設「glaminka S A Y O 集落」がオープン

2月

- 新型コロナワクチン接種対策室を設置
- 「第1回さよう星降る町のビジネスプランコンテスト」を開催

3月

- 佐用・たつの警察署が統合し、佐用警察センターが開所

STORY 17

glaminka S A Y O 集落創業者
大野篤史さん(中土居)

空き家活用事業で
ビジコンに出場

神戸市で小学校教諭をしていた大野篤史さんは、廃村の危機にあった若州集落の古民家6棟を2020年から改修。翌秋、宿泊施設「glaminka S A Y O 集落」をオープンしました。



▲自分たちの手で改修した赤い屋根の古民家

改修を進める中で21年、「さよう星降る町のビジネスプランコンテスト」に応募。「この集落を再び人が集まる場所にしたい」と思いを述べ、最優秀賞に輝きました。「当時はコロナ禍で地域の方との交流は控えていましたが、受賞後は皆さんから声をかけてもらえらるようになり、居場所ができました」。

開業後は全国から客が訪れ、スタッフとして働くようになった人もいます。地域内外を問わず多くの人に愛される場所になりつつあります。

STORY 18

佐用郡医師会会長
尾崎病院院長
尾崎公彦さん

コロナ禍で検査体制の
整備などに取り組む

町内で初めて新型コロナウイルスの感染者が出たのは、2020年8月のこと。「医師会ではまず、検査体制を整えました」と尾崎公彦さんは振り返ります。同年10月、町の補助金を活用し、屋外で検査ができるよう佐用共立病院と佐用中央病院にテントを設置し、ポータブルX線装置を配備。他の医療機関には空気清浄機を貸与し、感染拡大に備えました。



▼発熱外来用テントを視察した庵治町長

しかし、11月に介護施設でクラスターが発生。「入院先が見つからず施設で待機し続けた患者もいました」。この教訓から現在医師会では、介護施設と近隣の医院との連携促進に努めています。「日頃からつながりを深め、非常時に対処できる体制を」と呼びかけます。



▲みそだるが並ぶ貯蔵スペース

5月 味わいの里三日月の みそ加工所が本格稼働

町内3直売所の農産物加工機能を集約する形で、味わいの里三日月に新しいもち大豆みその加工所と食品加工所を建設。3月に完成し、5月から本格稼働しました。みそ加工所は大型の煮炊き釜4基をはじめ設備を刷新したことで、年間生産量は100トンから150トンへと1.5倍に増える予定です。

4月2日、笹ヶ丘公園で開催された第17回佐用町桜まつりで、町観光大使の谷本賢一郎さんが「幸せの黄色いまち佐用町」を高らかに宣言しました。ひまわり、星、大イチョウなど黄色にちなんだ観光名所が多い佐用町。コロナ禍で落ち込んだ観光需要を回復させるため、アフターコロナの観光戦略として、2022年度に「佐用町幸せの黄色いまちプロジェクト」を立ち上げま



した。SNSやイベントを通じて幸せの黄色いまちを町内外へアピールしています。

4月 「幸せの黄色いまち佐用町」を宣言

9月、町有林化促進事業の一環で、山林引取制度がスタートしました。2019年に実施した森林管理者へのアンケートで、約8割の森林が十分に管理できていないことが判明。荒廃が進めば、倒木や山腹崩壊など生活への脅威となり得るため、管理が困難な山林を町が引き取り、経営管理することに。健全な森林へと生まれ変わらせるとともに、所有者不明や放置された森林の解消につなげる狙いです。



▼試験的に町内で植栽している早生樹のユーカリ



23年度からは、荒廃した山を健全な森林に再生するため、短期間で生育する早生樹を活用した「短伐期施業」の調査・研究に着手。企業や大学の協力を得ながら、町の環境に合った樹木の選定を進め、効率的かつ効果的な林業サイクルをめざします。

引き取り方法は寄付と買い取りの2通りあり、買い取り金額は1平方メートル当たり10円。さらに、生えている樹木がスギ・ヒノキであれば、1ヘクタール当たりの立木本数に応じて別途買い取ります。24年度末までに町有林化した山林は396件、917万5123平方メートルで、町内の森林面積の約4%に相当します。

9月 町有林化促進事業を開始

- | | | | | |
|--|---|---|--|--|
| <p>10月 ● 合併20周年記念式典</p> <p>7月 ● 「縮充のまちづくり」を宣言</p> <p>5月 ● 味わいの里三日月のみそ加工所が本格稼働</p> <p>4月 ● 教育長に大森一繁氏が就任</p> | <p>2025 (令和7) 年度</p> <p>3月 ● 南光文化センターの大規模改修が完了</p> <p>5月 ● 議長に千種和英氏が就任</p> <p>4月 ● 佐用浄化センター前処理施設が供用開始</p> | <p>2024 (令和6) 年度</p> <p>3月 ● 福吉集落の「井上家住宅」が国登録文化財に</p> <p>4月 ● 上地域交流センター開所式</p> <p>3月 ● 佐用郡衛生公苑が廃止</p> <p>4月 ● 三土中学校跡「佐用まなび舎農園」が休止</p> | <p>2023 (令和5) 年度</p> <p>4月 ● 「幸せの黄色いまち佐用町」を宣言</p> <p>3月 ● 「いこいの広場」(旧佐用保育園跡)に遊具設置</p> | <p>2022 (令和4) 年度</p> <p>4月 ● リモートセンシングを活用した地籍調査に着手</p> <p>5月 ● 三日月浄化センター前処理施設が供用開始</p> <p>8月 ● 谷本賢一郎さんを町観光大使に任命</p> <p>9月 ● 町議会議員選挙(定数14人)</p> <p>5月 ● 議長に小林裕和氏が就任</p> <p>8月 ● 「因幡街道・千種川ロングライドin佐用」がスポーツ庁長官賞を受賞</p> <p>9月 ● 山林引取制度を開始</p> <p>1月 ● 成人式が「二十歳のつどい」に名称変更</p> |
|--|---|---|--|--|

▼店内を巡回し、陳列をチェック



検討しています。新たな名物候補を探ることも、私に与えられた重要な使命です」と意気込みます。

加工所完成を機に 新名物の開発を目指す

元佐用町職員の衣笠俊博さんは農林振興課で特産品開発に携わった経験を買われ、2022年に(株)元氣工房さよう代表取締役就任しました。経営目標の一つが「町内雇用の創出」です。「町が100%出資した会社なので大幅な黒字を追求するより、一人でも多く採用することを優先しています」



STORY 20

(株)元氣工房さよう代表取締役
衣笠俊博さん(安川)

▼2025年も桜まつりのステージに出演。子どもたちの声援を浴びました



コンサートで佐用町のPRをする傍ら、帰省した際は町内の保育園や幼稚園に出向いて園児と一緒に歌います。「僕が歌手になれたように、子どもたちには好きなことを見つけて、それ続けることが大切さを伝えていきたいです」と、子どもたちの人気者タニケンさんは目を細めます。

STORY 19

歌手・佐用町観光大使
谷本賢一郎さん(早瀬2出身)



観光地の魅力を増した ふるさとに誇り

「外から見た佐用町は地域おこしが活発という印象です」。谷本賢一郎さんは18歳の時に郷里を離れ、東京に住んで四半世紀以上になります。「昔は名物といえば星空ぐらいでしたが、今はホルモン焼きうどん、ひまわり畑など盛りだくさん。観光大使冥利に尽きます」

【座談会】

私たちの佐用町。
20年の思い出と
これからの夢。

佐用町が発足した2005年度に生まれ、
中学時代は生徒会長を務めた
4人の大学生が帰省して、
庵途典章町長とふるさとへの思いや
将来の夢などを語り合いました。

佐用町を離れ
大学で学んでいることは

庵途 春井さんは兵庫教育大学だから、
将来の夢は学校の先生ですね。

春井 はい。高校の社会科教員をめざし
ています。

仲村 僕は美術館の学芸員になりたく
て、西洋美術史など美術関係の科目を中
心に履修しています。

本種 私は言語聴覚士の資格取得に向
けて勉強中です。

庵途 私の娘も言語聴覚士です。授業に
追われて大変でしょう。

本種 毎日、全コマ埋まっています。2
年生が山場で、単位を一つでも落とせば
留年するので必死です。

庵途 東京大学の理科一類からは、どう
いった学部へ進むのですか。

和田 多いのは理学部と工学部です。
まだ決めていませんが、2年生になれば

どちらかを選択することになります。

佐用町で暮らしていた頃の
一番の思い出は

仲村 小学生の時、町が企画したイング
リッシュキャンプなどの行事に参加し
たことです。千種川で生き物を捕まえて
調べるといった普段できない体験が記
憶に残っています。

春井 町内はグラウンドや公園が充実
しているので、しょっちゅう体を動か
していました(笑)。小学生の時はソフト
ボールに夢中で、和田君や仲村君とも試
合をしたことがあります。

和田 真っ先に浮かんだのは人の温か
さです。学校の行き帰りに、近所の人が
「おはよう」「おかえり」と声をかけてく
れるのが当たり前でした。

本種 私もそうです。幼い頃から「近所
さんが見守ってくれました。今でも帰省

すると話しかけてくれます。

庵途 下宿先で近所の人と関わることは
ありますか。

和田 全くないです。佐用にいた頃は自
分という存在が受け入れられている安
心感がありましたが、上京後は孤独を感じ
ることが増えました。

本種 大阪に出て1年半になりますが、
マンションですれ違ってもあいさつす
ることなく、隣にどんな人が住んでいる
のかいまだに知りません。

庵途 近所の結び付きが強いのは地方
の小さな町のいいところです。特に佐用
町は気さくな人が多いですからね。

改めて気づいた
佐用町の魅力とは

和田 僕にとってSpring8は地
元の一施設に過ぎませんでしたが、大学
の授業で取り上げられた時にやはりす
ごい施設なのだと再認識しました。

庵途 Spring8は2029年を
めどに性能を約100倍に向上させる
計画が進んでいます。なゆた望遠鏡があ
る西はりま天文台もそうですが、町内に
世界レベルの施設があるのは誇りです。
仲村 大学の英語の授業で故郷を紹介
する機会があり、アメリカからの留学生

にSpring8やなゆた望遠鏡のこ
とを話したら興味津々でした。第三者の
リアクションで、改めて町のポテンシャ
ルの高さに気づかされました。

本種 佐用町内の病院での実習を終え
た4年生の先輩が「すこい所やん」
と、自然の豊かさや人の優しさを気に
入ってくれたことは素直にうれしかっ
たですね。

庵途 佐用町では次の20年を見据え、
「縮充のまちづくり」を進めています。人
口やまちの規模が縮小する中で、暮らし
を充実させるためには、どんなアイデア
が浮かびますか。

春井 中学校の総合的な学習の時間に
町特産のひまわりを育てたことで、地元
にさらに親しみが湧きました。小中高校
で佐用町の魅力に焦点を当てた授業を
すれば、生徒のふるさとへの愛着を深め
られると思います。

和田 東大には、今までに出会ったこと
がない優秀な人たちがたくさんいて、自
分は狭い世界で生きてきたのだと痛感
しました。だから、佐用の子どもが外の
世界に触れられる教育プログラムがあ
ってもいいのではないのでしょうか。

仲村 僕にとってのイングリッシュ
キャンプのような子どもたちの学びの機
会をつくることは大切です。今はインター



春井大輝さん
兵庫教育大学2年生
(上津中学校出身)

本種菜央さん
大阪人間科学大学2年生
(上月中学校出身)

庵途典章町長

仲村駿甫さん
島根大学2年生
(三日月中学校出身)

和田瑛士さん
東京大学1年生
(佐用中学校出身)

ネットの情報で体験した気分になれませんが、例えば、なゆた望遠鏡で星空を眺めるといった、実際の体験で得られる感動は子どもの成長に欠かせないものだと思います。

本種 みんなの考えが立派過ぎて、何も言えないじゃないですか(笑)。各地域のコミュニティ活動が充実して、住民同士が仲良くつながることが一番です。

一人暮らしをしてつくづく思います。

未来の佐用町で かなえたい夢は

和田 どこで何の仕事に就くかも分かりませんが、子どもを育てるなら佐用町がいいですね。地域の人たちから優しくされれば、自然と思ひやりのある人間に

育つと思います。

仲村 僕が学芸員を志したのは、幼い頃に兄と美術館へ行った経験が影響しています。だから、子どもたちがアートに触れられるワークショップや鑑賞会を催して、町を盛り上げられたらいいですね。

春井 先ほど、佐用町の魅力に焦点を当てた授業ができればと言いましたが、

それを教員として佐用高校で実現したいです。

庵造 頼もしいですね。佐用高校は町の発展に貢献した人をたくさん輩出してきましたが、近年は町外への進学者が増え、生徒数は減り続けています。佐用高校に限らず、地方の高校の存在意義が問われています。だからこそ、郷土愛を醸成する授業は必要だと思います。本種

さんはどんな将来像を描いていますか。

本種 大学では3年生か4年生のどちらかで、実家から通える病院で実習します。実際にやってみないと結論を出せませんが、今のところ、町内で働くのも選択肢の一つとして考えています。

庵造 私も医療や福祉のお世話になる年代ですから、ぜひ、佐用町に戻って現場を支えてもらいたいですね(笑)。

◆ ◆ ◆

庵造 私は「卒業」する身なので、次世代を担う皆さんにあれこれ伝えたいと、ついしつやべり過ぎたかもしれません(笑)。でも、伝えたいと思うのは、それだけ期待しているからです。無限とは言わないまでも、皆さんには大いに可能性があります。今後の活躍を願っています。まずは来年の二十歳のつどいで顔を見せてくださいね。





ひとつ空の下
ともに紡いだ20年

川のせせらぎが記憶を運び
風は山々を渡って想いをつなぐ

人のぬくもりは
この町の歴史を彩っている

わたしたちがめざすのは
うまく「縮まり」ながら
豊かに「充実」して生きる
——『縮充のまちづくり』

その歩みが町に息づき
人の輪となり広がり
町の灯となって受け継がれる

20年の軌跡を礎として
新たな物語が始まります

佐用町合併20周年記念誌

発行日：2025(令和7)年10月1日

制作：佐用町（資）谷本弘輝堂